

おもてなしグリーンプロジェクトについて

熊本県 土木部 道路保全課

1. はじめに

熊本県では、緑あふれる快適な生活環境づくりのため、昭和60年から10年間にわたった「くまもと緑の3倍増計画」等に基づき、緑化施策を積極的に推進してきました。

その結果、道路の緑化は飛躍的に進み、そのシンボルロードである主要地方道熊本益城大津線（通称「第二空港線」）をはじめとして、豊かな緑の空間が創出され、地域の価値が大きく向上しました。

しかしながら、街路樹ストックが膨大となったことや整備から長い年月が経過したことによって、以下のような課題も顕在化してきました。

- 剪定・除草が十分に行き届かないことによる見通しや景観の阻害、通行の支障の発生
- 高齢木の増加等による倒木や落枝の発生（道路管理瑕疵事故の発生）
- 台風等の災害時における倒木による道路機能の阻害 など

さらに、厳しい財政状況もあって、限られた予算の中での「街路樹管理のあり方」を再構築する必要性が生じていました。

このため、熊本県では、平成27年から28年に、「熊本益城大津線（第二空港線）の街路樹に関する検討会議」を実施し、「熊本益城大津線（第二空港線）街路樹管理に関する見直し改善方針」を策定しました。

そして、今年、ラグビーW杯、女子ハンドボール世界選手権大会というビッグスポーツイベントが続く^(※1)ことなどから、熊本県を訪れる観光客に「美しい」「また来たい」「住みたい」と感じていただけることを目指して、平成28年度から本年度までの間、「おもてなしグリーンプロジェクト」として、上述の改善方針等に沿った沿道景観等の改良復旧を推進しています。

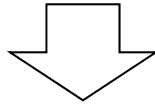
(※1) ラグビーW杯は国内の12都市で行われ、熊本では10月にフランス対トンガ、ウェールズ対ウルグアイ戦と言う好カードが、熊本県民総合運動公園陸上競技場（熊本市）で開催されます。

一方、女子ハンドボール世界選手権大会は、11月30日から12月15日までの約2週間、予選から決勝まで全96試合を県内（熊本市、八代市、山鹿市）の5会場を舞台に、強豪24チームが世界一の座を競います。

2. 「熊本益城大津線（第二空港線）街路樹管理に関する見直し改善方針」の策定

【背景と目的】

- 熊本県が管理する主要地方道熊本益城大津線（通称「第二空港線」）は、空の玄関口としてシンボリックな道路であり、長い間県内外の人々に親しまれてきた。しかしながら、長い年月の経過とともに街路樹の繁茂による見通しの阻害や景観の悪化等の課題が生じている。
- 限られた予算の中で道路交通の安全を確保するとともに良好な景観を維持し、将来に亘って望ましい街路環境を保つ必要があるため、沿道景観に配慮しつつコスト縮減を図った維持管理しやすい街路樹管理のあり方について多様な視点からの検討が必要である。



第二空港線の街路樹管理に関する検討会議発足

【検討会議メンバー】

- 学識経験者（3名）
【環境政策（1名）】、【土木景観（1名）】、【造園（1名）】
- 専門家・有識者（2名）
【造園（1名）】、【景観（1名）】
- 行政（4名）
【交通（1名）】、【行政（3名）】

【検討会議の開催状況】

- 第1回会議
・街路樹管理に関する課題の現状把握
- 第2回会議
・低木、中木の見直し改善策の検討
- 第3回会議
・低木、中木の見直し改善策の取りまとめ
- 第4回会議
・高木の見直し改善策の検討
- 第5回会議
・高木の見直し改善策の取りまとめ
・維持管理しやすい道路植栽のあり方について取りまとめ

【検討会議の提言】

＜基本方針＞

第二空港線は空の玄関口として県民に愛されているシンボルロードであることから、整備当初のコンセプト^(※2)を踏まえつつ、将来的な価値の低下を予防し、景観の維持や街路樹の健康維持・健全な世代交代を図るとともに道路交通の安全を確保するため、以下の基本方針に基づき街路樹の見直し改善を進めていく。

(※2) 整備当初のコンセプト

- ・熊本の顔とする
- ・並木の道づくりをテーマに県木であるクスノキを中心に樹種を選定する。
- ・加えて豊かな自然、田園風景の広がり、阿蘇外輪への眺望を生かす配植とする

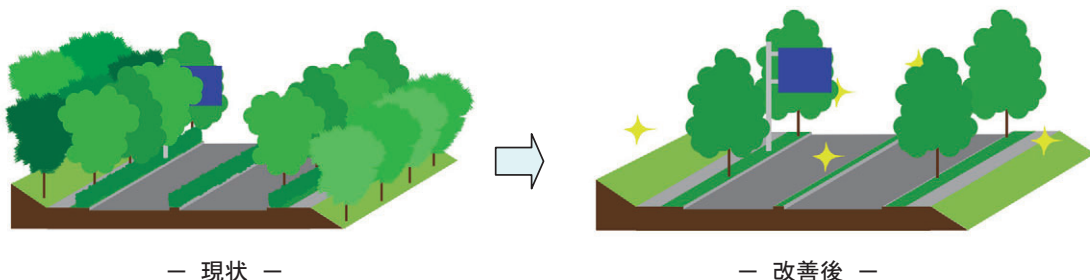
■低木・中木の見直し改善について

- ① 歩道幅員（実質的な通行空間）を2m確保することを基本とする。
ただし、高木付近で確保が困難な場合には、幅員を1.5mとして安全確保のために植樹帯の構造等を工夫する。
- ② 交通の安全確保のため支障となる植樹帯の街路樹は撤去に努める。
- ③ 交通の安全確保のため支障となる中央分離帯の街路樹は、見通しの確保や対向車の遮光効果に注意して撤去に努める。
- ④ 沿道（後背地）に相当量の緑地が存在する場合は植樹帯の縮小に努める。
- ⑤ 病虫害対策の観点から高木根元の低木は撤去する。
- ⑥ 眺望を阻害する街路樹及び竹木等は、撤去や再配置を行う。

■高木の見直し改善について

- ① 交通の安全確保のため支障となる植樹帯の街路樹は撤去を行う。
- ② 良好な眺望景観の維持のため、それを阻害する街路樹は撤去に努める。
- ③ 整備当時と比較して既存高木の総数が1／2程度となるように撤去を行う。
- ④ 撤去後は世代交代のため、幼木の補植を検討する。

街路樹の見直し改善イメージ



<見直し改善策>

■低木・中木

植樹帯：歩行者の安全な通行に配慮して植樹帯を縮小

加えて、低木を撤去・地被類へ更新

分離帯：対向車の遮光効果・安全性を考慮したうえで低中木を撤去・地被類へ更新

閉塞感が生じる区間では中木のみ残して低木を撤去

共通：交差点付近など交通安全上の視認性確保が必要な箇所は全撤去

■高木

A、Eゾーン：原則として現状維持

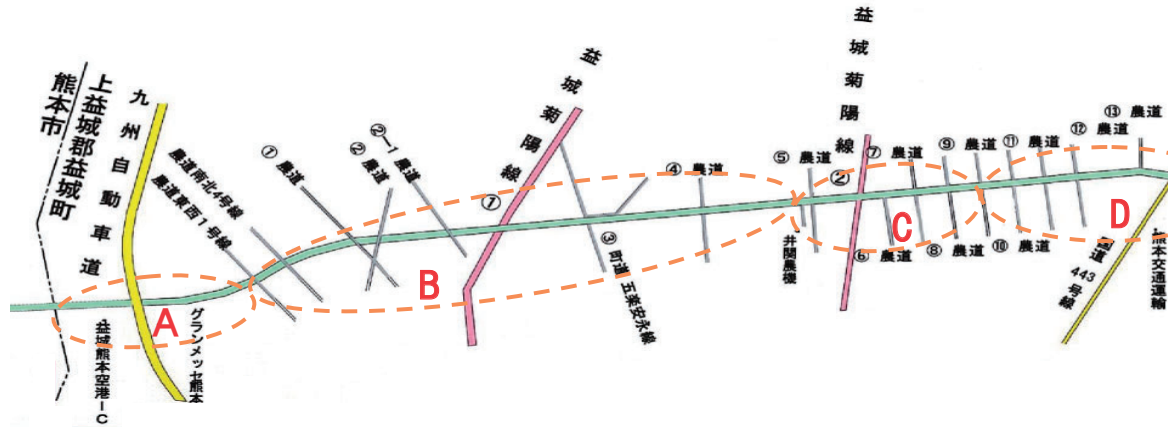
B~Dゾーン：整備当時に比して1/2本毎の配植となるよう撤去

Fゾーン：整備当時に比して総数が1/2本程度となるよう配植

※交通安全上の支障となる高木は原則として撤去(交差点等から約10m、標識等から約5m)



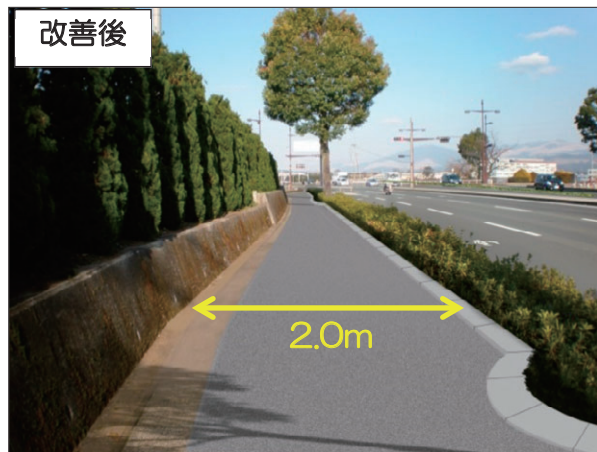
県都を抜けて、郊外の豊かな田園景観や阿蘇の外輪山等の眺望を認識しつつ、空港に至って帰途に着く



空の玄関口となる空港から広大な田園景観の中を通過して県都に向かい市街地の導入空間に至る



【Aゾーン】

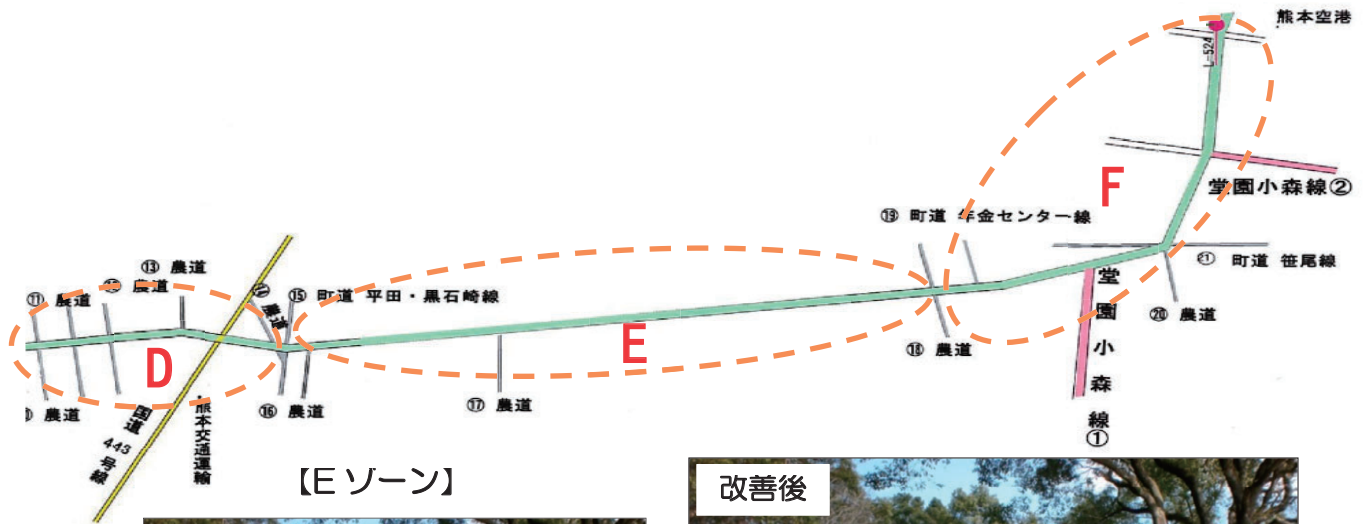


【Dゾーン】

現況



改善後



【Eゾーン】

現況



改善後



【Fゾーン】

現況



改善後



3. おもてなしグリーンプロジェクト

【基本コンセプト】

今年、熊本県で開催されるラグビーW杯や女子ハンドボール世界選手権大会等を見据え、開催地や観光地等に至る沿道景観等の魅力化を図ることで、地域経済の活性化を推進する。

～熊本県を訪れる観光客が「美しい」「また来たい」「住みたい」と感じる沿道景観等の改良復旧を推進する～

【課題（現状）】

- ・ 厳しい財政状況の中、道路等植栽の維持管理費は必要最低限の箇所しか投入されておらず、沿道景観の魅力化や街路樹の適正な更新が十分に行われていない。
- ・ また、植栽の繁茂による施設の機能低下や、いびつな樹形の放置、根上がりによる舗装等の損傷、樹木の老朽化による倒木の危険性など安全上の課題も指摘されている。

【取組み内容】

- ・ 沿道景観や緑化環境、将来のメンテナンスコストを重視した植栽構造の改善。
- ・ 倒木事故防止のため、老朽化した街路樹等の更新。

【施工事例】

- ① 路線名 : (主) 熊本益城大津線 (益城町)

施工内容：中央分離帯の景観整備及び維持管理費用のコスト縮減のため、低木から地被類に更新

事業実施前



事業実施後



② 路線名 : 国道 445 号 (益城町)

施工内容 : 歩道植樹帯の景観整備及び維持管理費用のコスト縮減のため、低木から地被類+ソイル舗装に更新

事業実施前



事業実施後



③ 路線名 : (一) 畑中山鹿線 (山鹿市)

施工内容 : 道路際や縁石部の防草対策として、防草材を塗布

事業実施前



事業実施後



4. おわりに

今回、「おもてなしグリーンプロジェクト」で実施した取組みについては、良好な沿道景観等の形成に向けて、経過観察を行うとともに、維持管理費のコスト縮減等の効果検証を行っていきます。

なお、今後も、全ての県管理の国県道において、「熊本益城大津線（第二空港線）街路樹管理に関する見直し改善方針」を参考に、地域特性や個々の道路の状況に応じた道路植栽の見直し改善を実施していくこととしています。